

2021年3月期 第2四半期 決算説明資料



「横浜ベイコート倶楽部 ホテル&スパリゾート」2020年9月23日開業

リゾートトラスト株式会社(証券コード4681)

目次

- ・2021年3月期第2四半期決算ハイライト、セグメント実績、BS/CF計算書 P. 2-11
- ・重点取り組み・コロナ対策、施設休業・運営状況、2021年3月期通期計画、開発スケジュール、在庫状況 P. 12-17
- ・中期経営計画「Connect 50」 P. 18-19
- ・ESGに関する当社グループの概況 P. 20-21
- ・参考資料 主な動き 各事業詳細データ P. 22-30

※直近3カ月の実績数値は、別途、オフィシャルHPに掲載しております

<https://www.resorttrust.co.jp/ir/library/supplementary/>

決算ハイライト(4-9月)

(百万円)

	2020年9月 実績	2019年9月 前年実績	前期比
売上高	86,276	84,197	+2.5%
営業利益	9,980	8,501	+17.4%
経常利益	11,159	8,750	+27.5%
当期利益	5,696	5,499	+3.6%

〈前年同期比〉

新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言の発令、その後の施設クローズや個人消費自粛などによる影響を、ホテル運営、会員権販売、検診施設運営等の各事業において、大きく受けましたが、第2四半期には「横浜ベイコート倶楽部」の開業に伴う不動産の繰延収益が実現したこと、また、コロナ禍においても会員制事業を中心とした営業活動が底堅く推移し、会員制ホテル稼働においても回復軌道を示した後、さらにGoToキャンペーンの後押しがあったことなどにより、前年同期比で増収、各利益とも増益となりました。

これらの状況を踏まえ、本日11月10日付プレスリリースにて「業績予想の修正ならびに剰余金の配当(中間配当)の実施及び配当予想の修正に関するお知らせ」を公表しております。

事業別 売上高・営業利益(4-9月)

<売上高>

(百万円)

	会員権	ホテルレストラン	メディカル	その他		計
2020年9月実績	42,036	25,143	18,764	333		86,276
2019年9月前年実績	22,164	42,167	19,532	332		84,197
前期比	+89.7%	△40.4%	△3.9%	+0.1%		+2.5%

<営業利益>

(百万円)

	会員権	ホテルレストラン	メディカル	その他	本社費(間接費)	計
2020年9月実績	14,390	△ 3,181	2,515	254	△ 3,998	9,980
2019年9月前年実績	8,147	1,478	3,040	255	△ 4,420	8,501
前期比	+76.6%	△4,659百万円	△17.3%	△0.4%	+421	+17.4%

対比数値は金額差異

<参考:償却前セグメント利益※>

(百万円)

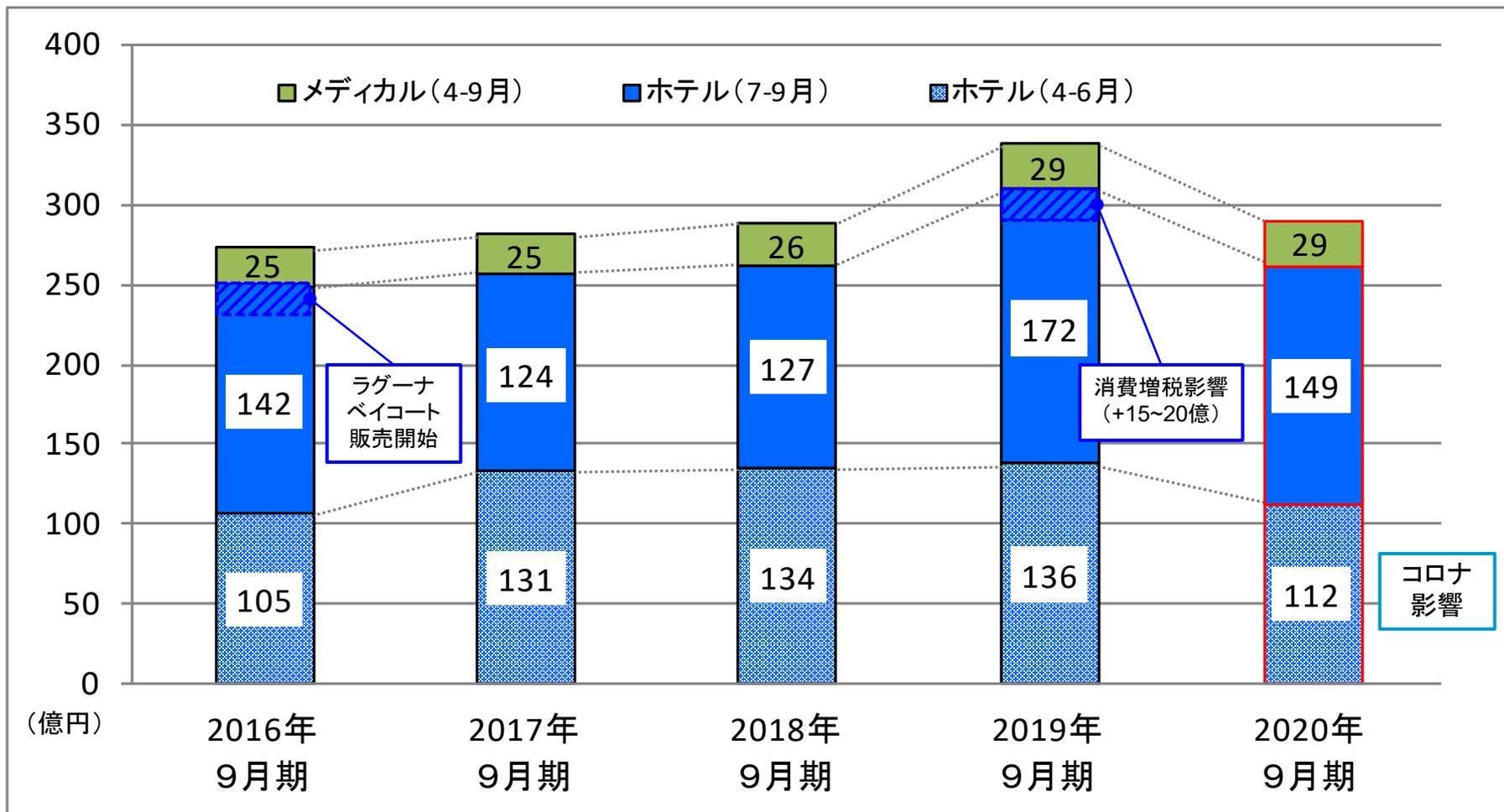
	会員権	ホテルレストラン	メディカル	その他	本社費(間接費)	計
2020年9月実績	14,412	△ 761	3,345	415	△ 3,053	14,359
2019年9月前年実績	8,171	4,515	3,840	422	△ 3,423	13,527
前期比	+76.4%	△5,276百万円	△12.9%	△1.7%	+370	+6.2%

※償却前セグメント利益(≒EBITDA) = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却費にて算出

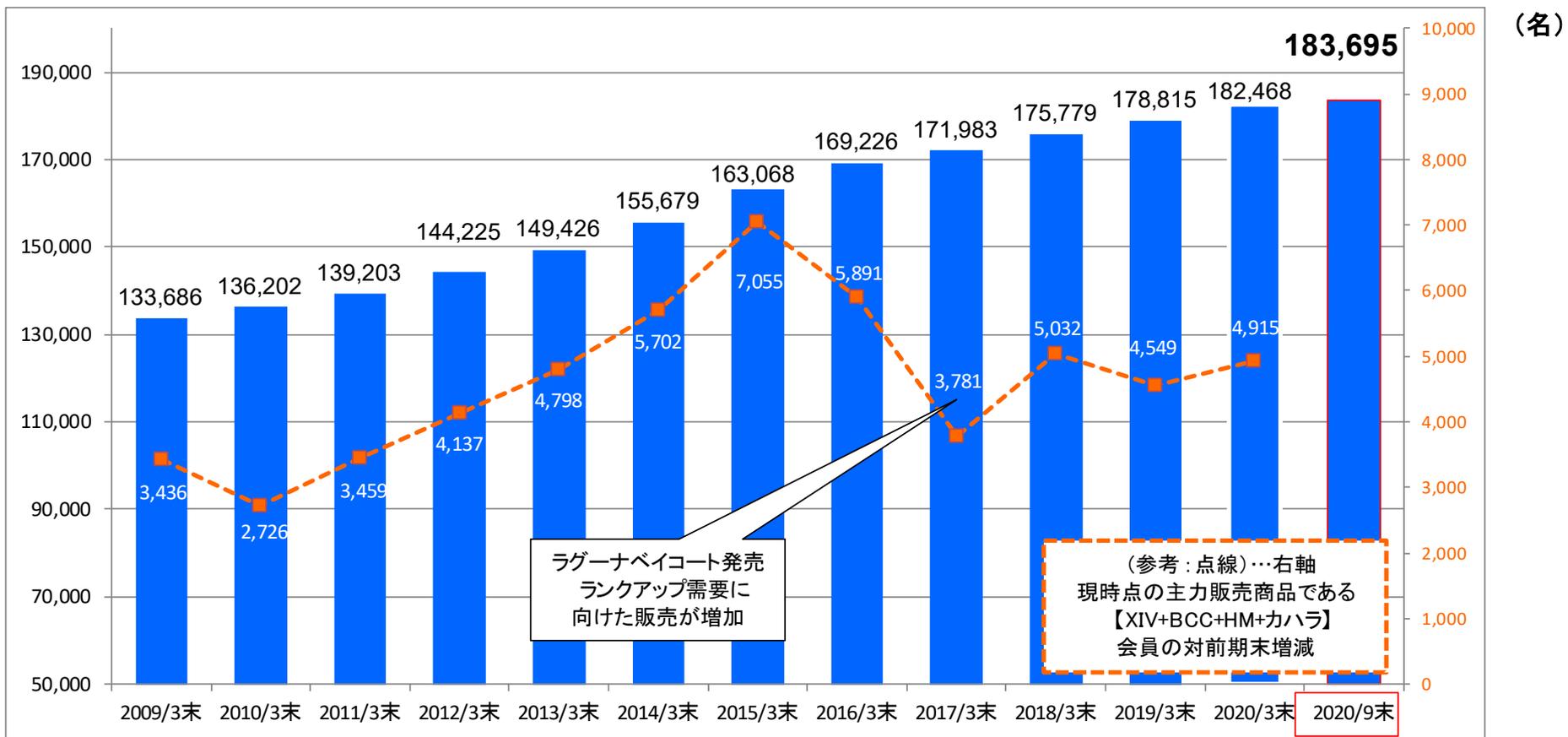
対比数値は金額差異

契約高の推移(4-9月)

- ・ホテル会員権契約高は、4-6月では緊急事態宣言発令後に営業活動を一部縮小した影響等により、前年を下回ったものの、7-9月では、前年の消費増税影響(約15~20億)を除けば、概ね前年並みとなった。
- ・ハイメディックは、通期で過去最高となった前期とほぼ同水準で進捗し、上半期を通じて堅調な推移となった。



会員数の推移



	ベイコート	エクシブ	サンメンバーズ	ゴルフ	メディカル	クルーザー	カハラ	合計
2020年3月末	20,507	77,982	31,485	30,001	21,534	381	578	182,468
2020年9月末	22,186	77,364	30,731	29,946	22,418	381	669	183,695
2020年9月期増減	+1,679	△618	△754	△55	+884	-	+91	+1,227
2019年9月期増減	+1,233	+322	△476	△43	+895	+8	-	+1,939

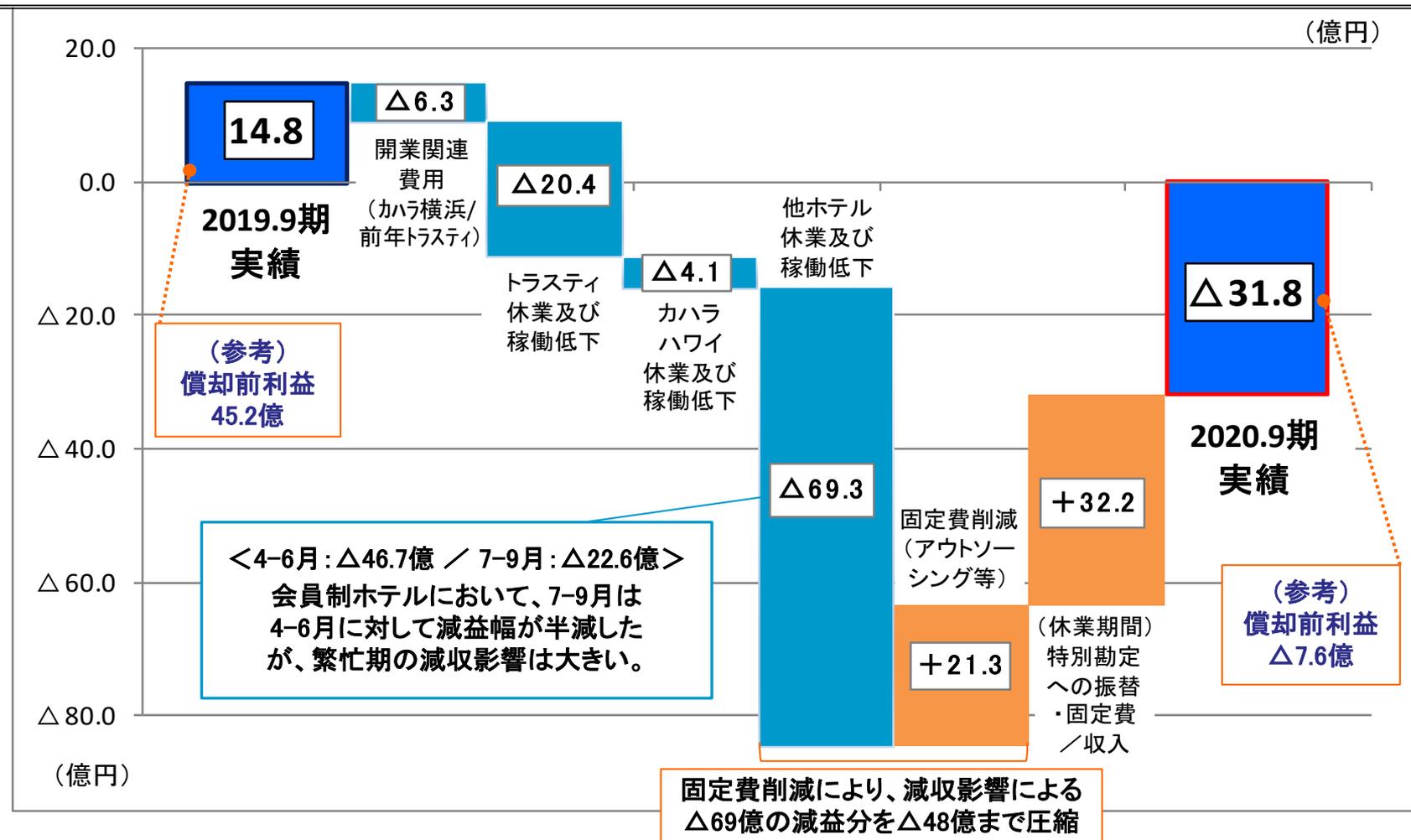
XIV+BCC+HM +カハラ 合計	+2,036
	+2,450

※会員権を複数所有されているケースについては、それぞれの会員権で1名ずつカウントしております

2020年9月期（対前期）

ホテルレストラン等セグメント営業利益の状況

当期は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、大きく営業利益が減少。GW以降～5月・6月にかけて施設をクローズしたため（多くは6月より再開）、該当する固定費（及び対応する期間の収入＝年会費・保証金償却収入）を特別損益にて計上。他、外注業務関連の固定費や営業関連費用を縮減。

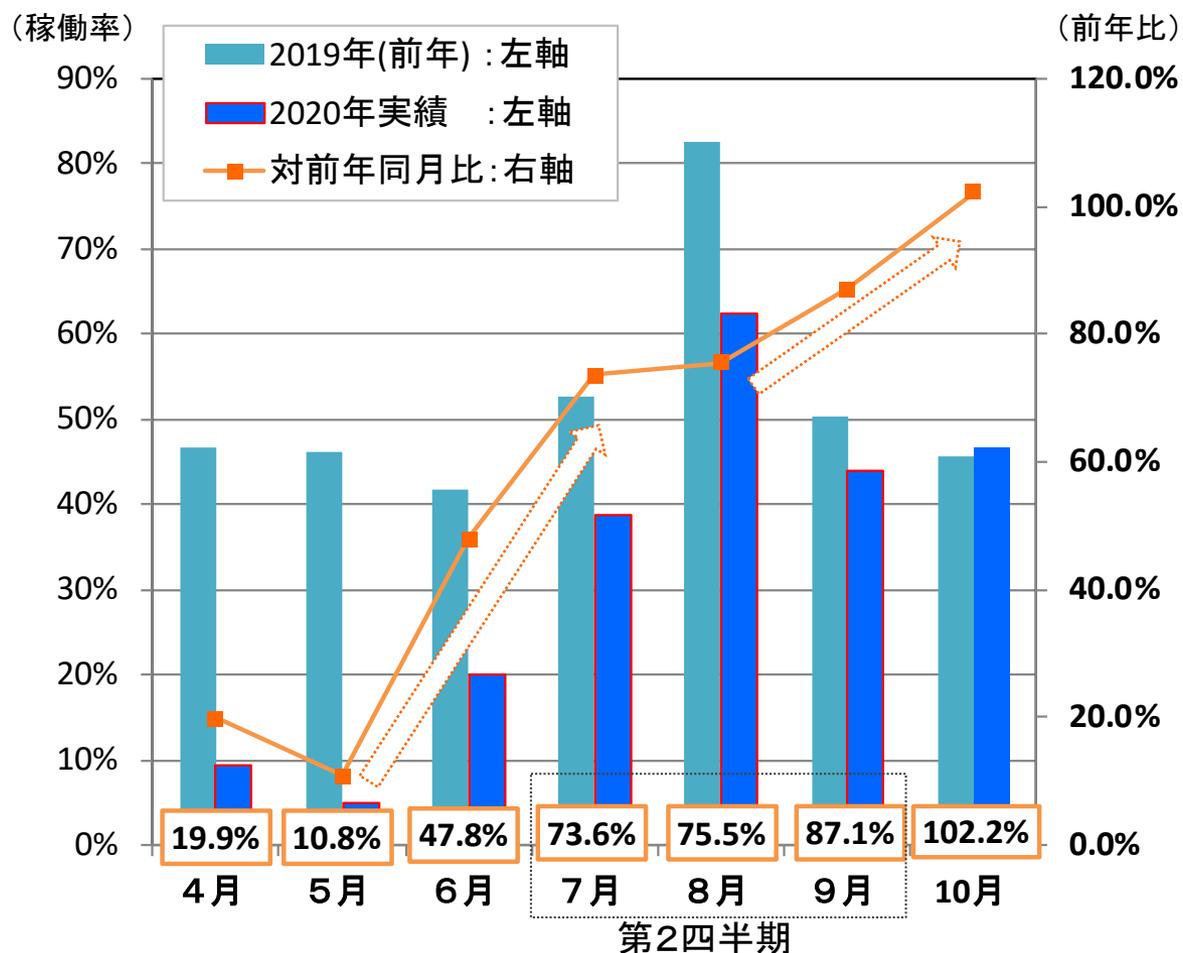


月別 ホテル稼働率の推移①

エクシブ、ベイコート、トラスティの各ブランドでの月別稼働率を比較。クローズ期間の室数を分母に含むため、休業日数が多くなった5月に稼働率が最も低下(前年比8~9割減)。その後7~8月には会員利用中心に回復、特に9月以降は、GoToキャンペーンの後押しにより回復幅が加速した。トラスティのビジネス利用、インバウンド利用の戻りは当面厳しく、収益性改善に向け取り組みを推進。

エクシブ稼働率(全体)

※クローズ期間の室数を分母に含む

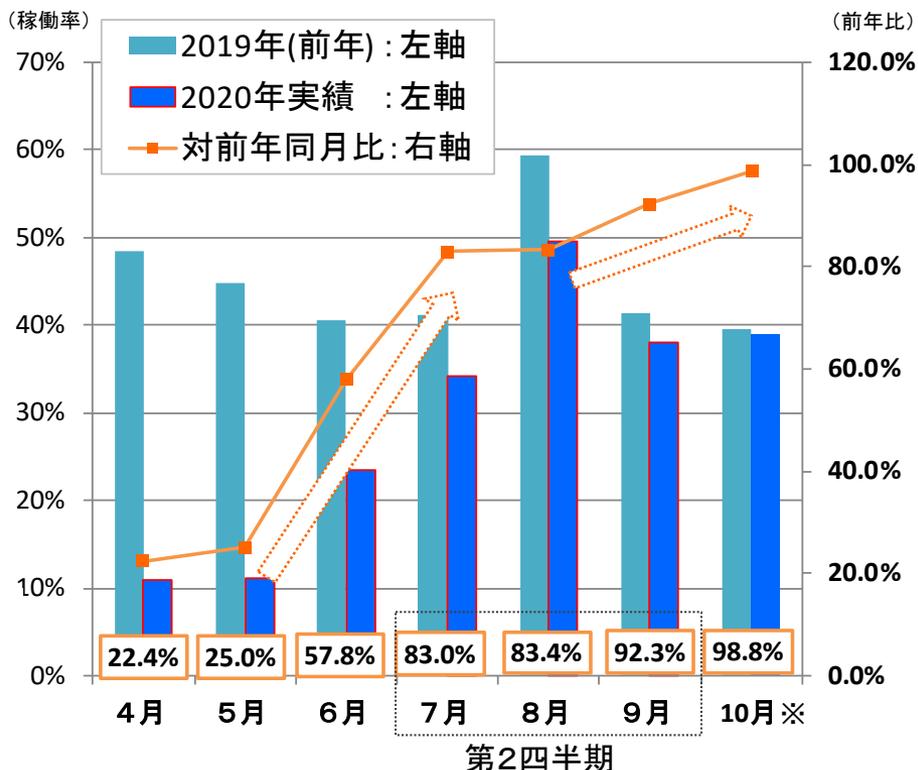


- ・4月の緊急事態宣言後、大部分の施設が休業を余儀なくされたことで、稼働が大きく低下。
- ・6月より多くの施設が営業を再開し、7月にはオーナー利用を中心に、前年に対し3割減程度の稼働まで回復。
- ・7月中旬以降の感染再拡大により、8月の回復ペースは一旦踊り場となったが、9月以降、GoToキャンペーンのプラン利用が本格化したことが後押しとなり、10月には前年を超過。(但し前年10月に台風影響含む)

月別 ホテル稼働率の推移②

ベイコート稼働率

※クローズ期間の室数を分母に含む



エキブ同様、4月の緊急事態宣言後に稼働が大きく低下した。その後、7月には前年の8割程度まで回復。10月には概ね前年並みの稼働率となった。(9/23以降横浜ベイコート含む。稼働室数では10月前年比123%)

トラスティ稼働率

※クローズ期間の室数を分母に含む



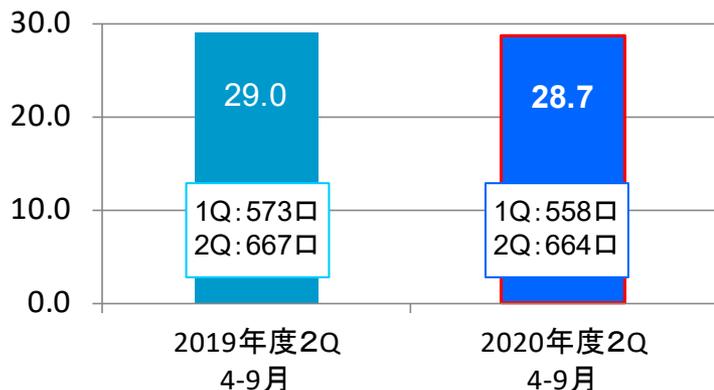
・感染が再拡大した8月を除いて、回復ペースは緩やかではあるが、徐々に稼働率が上昇。足元で観光需要が動きつつある中、ビジネス需要は厳しく、長期滞在プランなど新たな取り組みを推進。

メディカル事業の状況

2020年9月期のハイメディック会員権は、引き続き販売好調。一般健診は、新型コロナウイルス感染拡大の影響によるクリニックのクローズ等の影響を受けたものの、足元は前年超過。シニア施設の新規入居に対し会員優遇プランを開始。

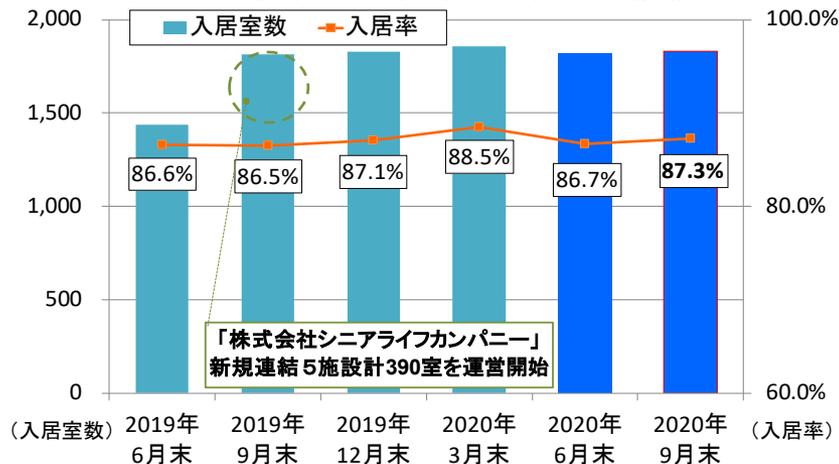
◆ ハイメディック会員権販売<前年対比>

(契約高:億円)



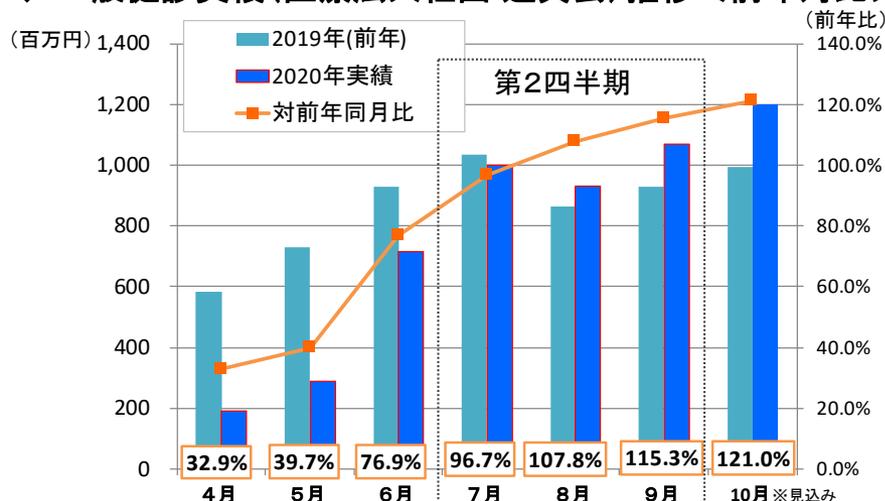
コロナ禍においてもニーズは堅調であり、前年と同水準を確保。

◆ シニアライフ事業の四半期別入居室数推移



コロナ禍で新規入居への案内や部屋の改修がしづらくなったことが影響し、今期4-6月にかけて入居率が低下したものの、7-9月には若干の改善傾向となった。

◆ 一般健診実績(医療法人社団 進興会)推移<前年対比>



1Qはクローズ影響を受けたが、2Q、8月以降は前年同水準以上まで回復。

・日本橋室町三井タワー ミッドタウンクリニック運営開始(2020年5月)

所在地 : 東京都中央区日本橋室町
三丁目2番1号
日本橋室町三井タワー 7F

<MS(メディカルサービス)法人事業>
企業健診や内科など一般の外来診療を行う「日本橋室町三井タワー ミッドタウンクリニック」を、新型コロナウイルス感染予防を徹底した上で2020年5月以降、部門別に順次運営を開始。6月より同フロアにおいてハイメディック検診も開始。



ハイメディック個室

連結貸借対照表

(百万円)

	2020年3月期末 (前期)	2020年9月期末 (当期)	増減		2020年3月期末 (前期)	2020年9月期末 (当期)	増減
流動資産	125,296	133,906	+8,610	流動負債	67,192	66,929	△263
現金及び預金	21,164	26,729	+5,565	仕入債務	1,117	1,053	△64
売上債権	8,233	9,744	+1,510	借入金	8,107	25,907	+17,799
営業貸付金	53,549	54,076	+527	一年内社債	150	150	-
有価証券	499	9,498	+8,999	未払金	15,632	16,922	+1,289
商品・原材料・貯蔵品	2,182	2,088	△93	前受金	22,028	2,730	△19,298
販売用不動産	22,077	22,554	+476	その他	20,155	20,165	+10
仕掛販売用不動産	12,357	3,518	△8,839	固定負債	200,649	214,867	+14,218
その他	5,231	5,695	+464	社債・長期借入金	31,316	46,858	+15,542
固定資産	275,537	285,260	+9,722	長期預り保証金	101,768	100,530	△1,238
有形固定資産	193,748	201,353	+7,605	新株予約権付社債	29,770	29,749	△21
無形固定資産	10,580	9,910	△670	その他	37,793	37,728	△64
投資その他の資産	71,208	73,996	+2,787	負債合計	267,842	281,796	+13,954
				純資産合計	132,991	137,369	+4,378
				株主資本	129,652	133,440	+3,788
				自己株式	△1,802	△1,795	+7
				その他の包括利益累計額	△50	613	+664
				新株予約権	313	313	-
				非支配株主持分	4,878	4,797	△81
資産合計	400,833	419,166	+18,332	負債・純資産合計	400,833	419,166	+18,332

連結キャッシュ・フロー計算書(4-9月)

(百万円)

	2019年9月 (前期)	2020年9月 (当期)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,302	△ 4,640
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 12,785	△ 22,764
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,311	32,999
換算差額	△ 0	△ 7
現金及び現金同等物の増減額	△ 3,776	5,586
現金及び現金同等物期末残高	20,118	26,963

事業別重点取り組み・コロナ対策

2020年3月期(中計2年目)

2021年3月期(コロナ対策等)

会員権

- 〈契約高の伸展〉 契約高前期比+10%(ホテル)
- ラグーナ価格改定 ▶既存物件新商品:「バージョン20」発売
 - デジタル化推進等による時間生産性向上:前期比+10%
 - 「ザ・カハラクラブ ハワイ」販売開始:2/25~契約高19億

- ▶営業活動時における検温その他感染予防策の徹底
- ▶テレワーク、一部休業等の柔軟な勤務に対する生産性の確保
- ▶コロナ禍における、業種別の経済実態に応じたマーケティング

ホテルレストラン

- 〈稼働率向上策〉 ⇒引き続き対策強化が急務
- ポイント会員数:21万人 ▶WEB予約:前期比+4P(16%⇒20%)
 - オーナーメリット向上、CSアップ:3月末時点前期比+0.11P
 - 大規模法人利用促進:前期比+8%(コロナ影響除く2月累計)
- 〈働き方改革・収益性の改善〉
- 生産性向上:年間シフト△80H(2,045H⇒1,965H) ▶固定収入増
- 〈ホテルトラスティブプレミア進出〉(9月日本橋、10月熊本)

- 〈感染防止対策および三密回避対策〉
- ▶入館時の書面健康チェック、ノンストップ・チェックイン/アウト
 - ▶ダチョウ抗体配合の空間ウイルス対策「V BLOCK Air」使用
 - ▶buffestail提供中止、夕食/朝食ルームサービス提供
 - ▶従業員の検温徹底、パブリックスペース等3時間毎の消毒
- 〈費用の抑制・運営施策〉
- ▶固定費を中心とした費用の縮減(50億規模)
 - ▶営業施設の一部集約(次頁参照)、宅配サービス等の検討

メディカル

- 〈ハイメディック販売拡大〉 契約高前期比+8%
- ▶下半期、日本橋エリア新拠点の発売:10/16~501口
 - ▶ハイメディックアプリ導入・サービス拡充:アプリ導入
 - ▶インバウンド向け販売 ⇒コロナ影響見据え、継続検討
- 〈シニアライフ事業 施設数拡大・入居率向上〉
- ▶開業・取得施設のスムーズな運営:6施設、390室増加
 - ▶入居率向上策 ⇒営業人員増強、グループ会員向け強化
 - ▶新拠点の展開 ⇒コロナ影響を見据え、継続的に検討
- 〈BNCT事業〉 研究機器納入、11月より治験:順調に進捗

- 〈感染防止対策および三密回避対策〉
- ▶感染管理のための物品確保(消毒、ゴーグル、防護服等)
 - ▶(ミッドタウンクリニック)ホテル等グループの他施設と連携、対策指導と衛生管理の強化
 - ▶(健診・人間ドック)状況に応じて稼働調整
 - ▶(シニア施設)消毒徹底、面会、入館及び外出の制限 等
- 〈グループ顧客向けサービスの充実〉
- ▶初診からの遠隔診療(4/24~5/7に実施)※従来は再診のみ
 - ▶感染対策メール相談、ポイント会員向け情報発信

本社

- 〈デジタル化、働き方改革の推進〉
- ▶年間休日数増加:110日⇒120日
 - ▶ITの徹底活用:デジタルマーケティング活用による会員権販売
前期比+160%(2019.3=6億⇒2020.3=16億)
 - ▶本社間接部門コスト見直し:本社費減少(継続的に削減)

- ▶安定資金確保のための特別融資(銀行借入)の実行
- ▶コミットライン借入枠800億設定済 ※震災・買収用300億含む
- ▶役員報酬一部返上・減額その他、各種費用の縮減
- ▶従業員への休業補償(国が定める保証の割合に対し上乘せ補填)
- ▶従業員に対するPCR検査、抗体検査の実施

コロナ影響による施設休業・運営状況

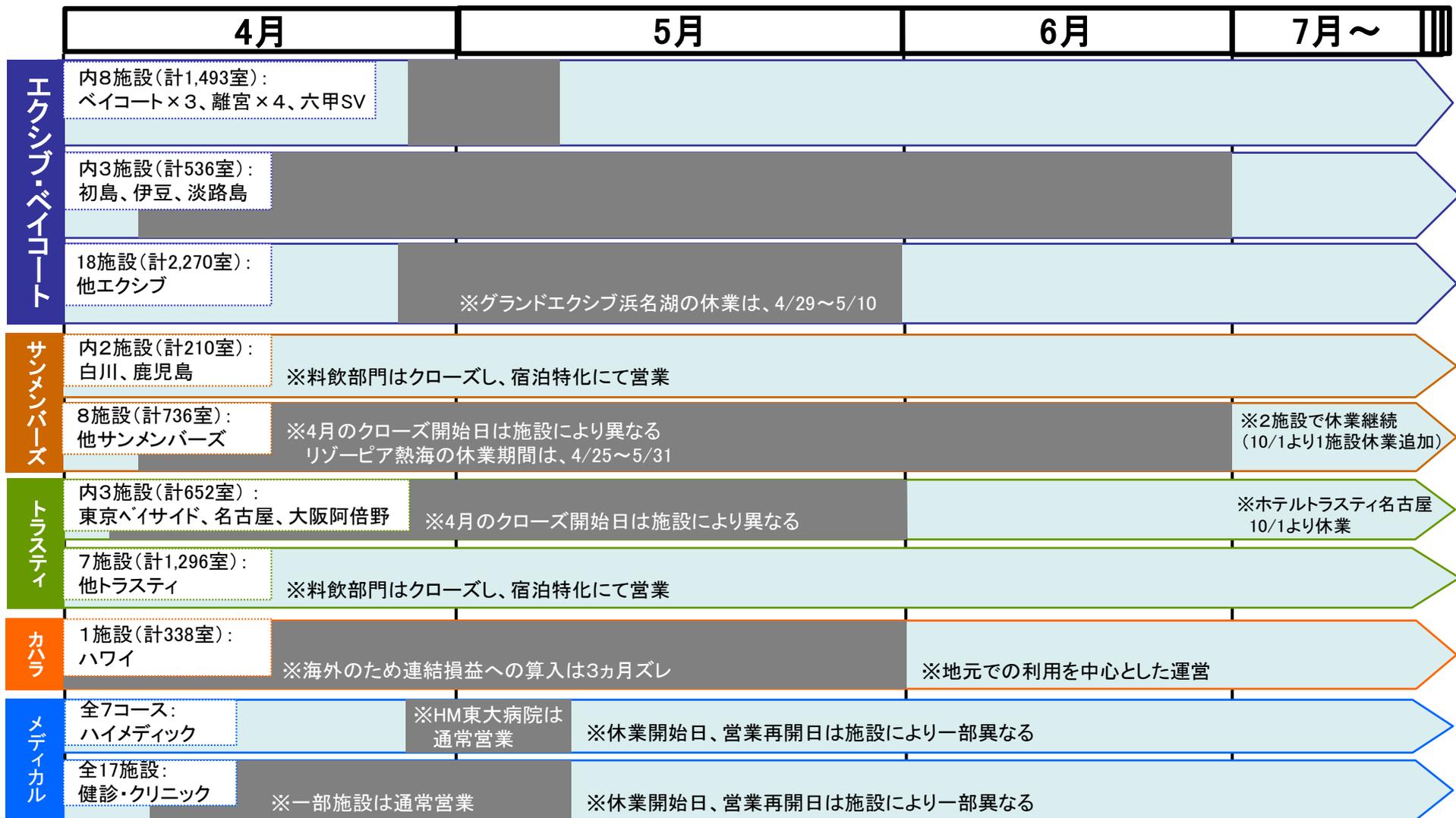
◆上半期における主な施設の運営・休業状況

…運営

…クローズ

※今後の予定、直近の状況及び詳細情報は、当社オフィシャルホームページ「おしらせ」にてご確認ください

※運営施設においては、お客様・従業員の安全のため衛生強化に努めております(ご参考:リゾートトラストの感染予防策 <https://rt-clubnet.jp/hotels/sp/measures/>)



※5/1時点での未開業施設を含まず

2021年3月期 通期修正計画

◆2020年11月10日付で通期業績予想、配当予想を上方修正

＜連結損益＞

(百万円)

	2020年3月期 実績	2021年3月期 修正計画	差異
売上高	159,145	165,000	+5,854
営業利益	11,652	11,000	△ 652
経常利益	12,476	13,000	+523
当期純利益	7,135	6,200	△ 935
一株あたり 当期純利益(円)	66.65	57.91	△ 8.74
一株あたり 配当金(円)	40	25	△ 15

＜セグメント売上/営業利益＞

(百万円)

		2020年3月期 実績	2021年3月期 修正計画	差異
会員権	売上	38,948	63,200	+24,251
	営業利益	13,559	20,200	+6,640
ホテルレストラン	売上	80,659	62,400	△ 18,259
	営業利益	92	△ 6,600	△ 6,692
メディカル	売上	38,867	38,700	△ 167
	営業利益	5,829	5,100	△ 729
その他	売上	670	700	+29
	営業利益	663	600	△ 63
本社費(間接費)	営業利益	△ 8,491	△ 8,300	+191
合計	売上	159,145	165,000	+5,854
	営業利益	11,652	11,000	△ 652

＜対前期変動要素の主な内容＞

＜売上高/営業利益＞

- ・前期繰延実現(開業による繰延収益計上、期中繰延除く)
2020.3期:なし
2021.3期:横浜ベイコート 売上高201億、営業利益71億
- ・開業関連費用差異
2020.3期:トラスティ等 2021.3期:横浜2物件
- ・減価償却費増加
横浜ベイコート/カハラ(開業後)、システム投資等
- ・年会費増加
横浜ベイコート(開業後)、HM・エクシブ会員増
- ・BNCT機器収入減少
2020.3期:売上高14億、営業利益2億 2021.3期:なし
- ・施設クローズ期間の固定費等を特別損失にて計上
2021.3期:35億(施設固定費・年会費等固定収入)

◆新型コロナウイルスに関する影響の想定

・各指標の前提条件(前年同期比)

	1Q実績	2Q実績	下半期見込み
ホテル会員権契約高	約2割減	約1割減	概ね5%減
HM会員権契約高	前年並み		概ね前年並
XIV・BCC稼働室数	約7割減	約2割減	概ね5割減
トラスティ稼働室数	約9割減	約7割減	概ね前年並
MS法人事業収入	約3割減	前年並み	概ね8割減
海外ホテル(ハワイ)	前年並み	約9割減	

※4Qは、ホテルで前年既にコロナ影響を受けた状況との比較、ハワイは3ヵ月後れて連結

- ・他、固定費の削減、変動費の抑制を見込む
- ・再び全国規模の緊急事態措置が取られることを見込まず

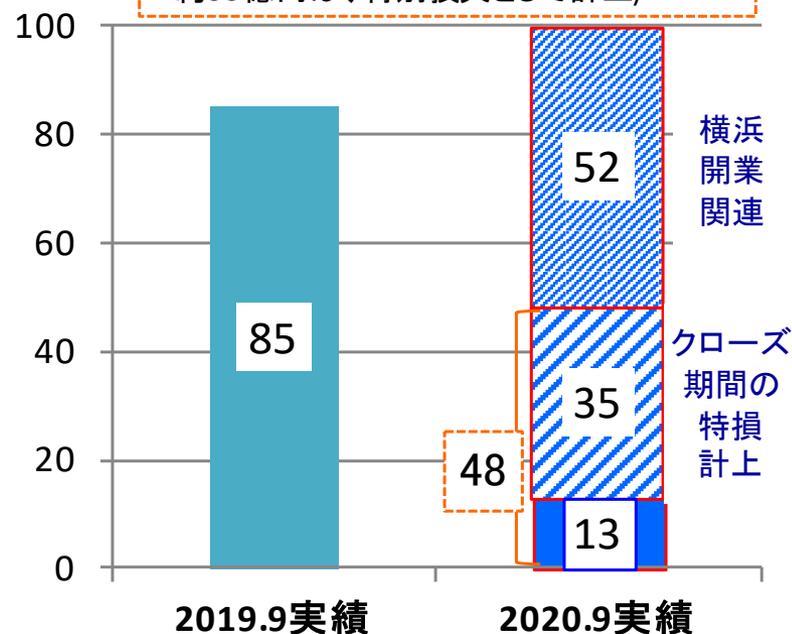
営業利益の進捗状況(上半期・下半期)

上半期の連結営業利益から、横浜ベイコート倶楽部の開業に伴う収益計上分を除き、クローズ時に特別損失として計上した費用を加味した場合でも、利益を確保。下半期も引き続き黒字を見込むが、一般向け施設においては減益を想定。

連結営業利益の状況(単位:億円)

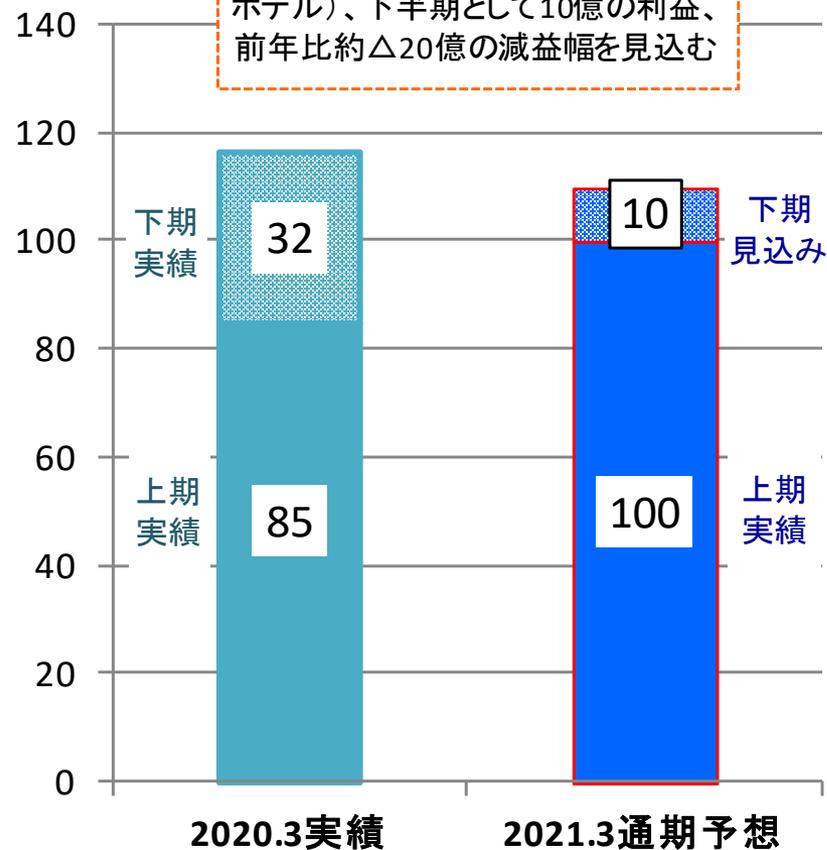
9月、横浜ベイコート倶楽部開業に伴い、前期までの不動産販売分繰延利益実現額、約71億を計上。一方で開業関連費用を△19億(カハラ横浜含む)計上し、合わせて計52億の利益影響があった。

上期
上半期、開業影響を除く利益は約48億円。(ホテル等のクローズ時に発生した費用等約35億円は、特別損失として計上)



通期

コロナ影響により(主にハワイ・一般ホテル)、下半期として10億の利益、前年比約△20億の減益幅を見込む



開発スケジュール(進捗状況)

赤枠内表示は、本中計策定時を基にした想定であり、変更の可能性があります
(今後については、市場環境の変化等を見据え、継続的に検討)

<販売および開業スケジュール_2020年11月10日時点>

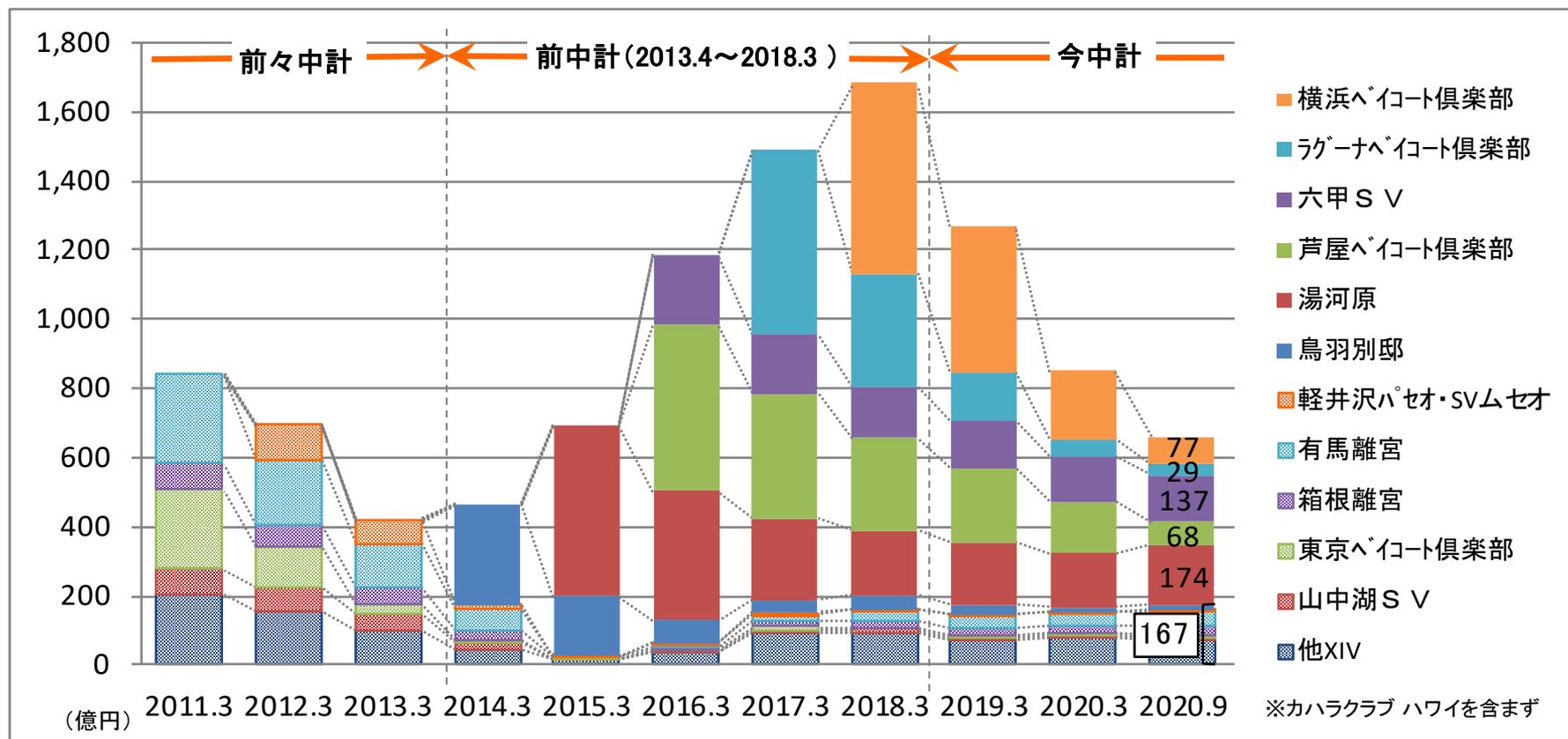
● 販売開始 ● 開業・取得

中計		前中計「Next40」					本中計「Connect 50」					
年度		2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	
販売・開業 スケジュール	会員制 リゾートホテル	● エクシブ鳥羽別邸 → ●		● エクシブ湯河原離宮 → ●		● 芦屋ベイコート → ●		● エクシブ六甲SV → ●		● ラグーナベイコート → ●		
							● 横浜ベイコート → ●					
							● カハラクラブ ハワイ → ●					
							● 高山 → ●					
							● 関東/関西 → ●					
開業 スケジュール	ラグジュアリー (LH)						● カハラ横浜 → ●					
	ホテル トラスティ (HT)	● 金沢				● 白川				● 日本橋浜町		
	会員制 検診クラブ	● ミッドタウン			● 京大病院 ● 東京ベイ ● 名古屋				● 東京日本橋	● LH① ● LH②		
	シニア レジデンス (SR)	● 御影	● 等々力 ● 東横町	● 本郷	● 常盤松	● アクティバ蓬原	● 四条烏丸	● 馬車道	● 白壁 ● 荻窪 ● 5施設※	● HT① ● HT②		
リニューアル	● 箱根				● 別府 ● 白川 ● 鳥羽				● 熱海 ● 新宿			

※ 介護付有料老人ホーム「フェリオ多摩川」、「フェリオ成城」、「フェリオ天神」、「フェリオ百道」、および住宅型有料老人ホーム「レジアス百道」

販売在庫(期末契約高ベース)の推移

- ・前々中計期間(2008.4~2013.3)、リーマンショックと震災影響により開発を後ろ倒しにしたことで、在庫を圧縮。
- ・前中計期間(2013.4~2018.3)、蓄積された需要に向け開発・販売を加速し、一時在庫は1,600億円超まで増加。
- ・今中計に入り、2年半経過。販売在庫は2020.9末で652億円と、およそ1.5年分を保持。



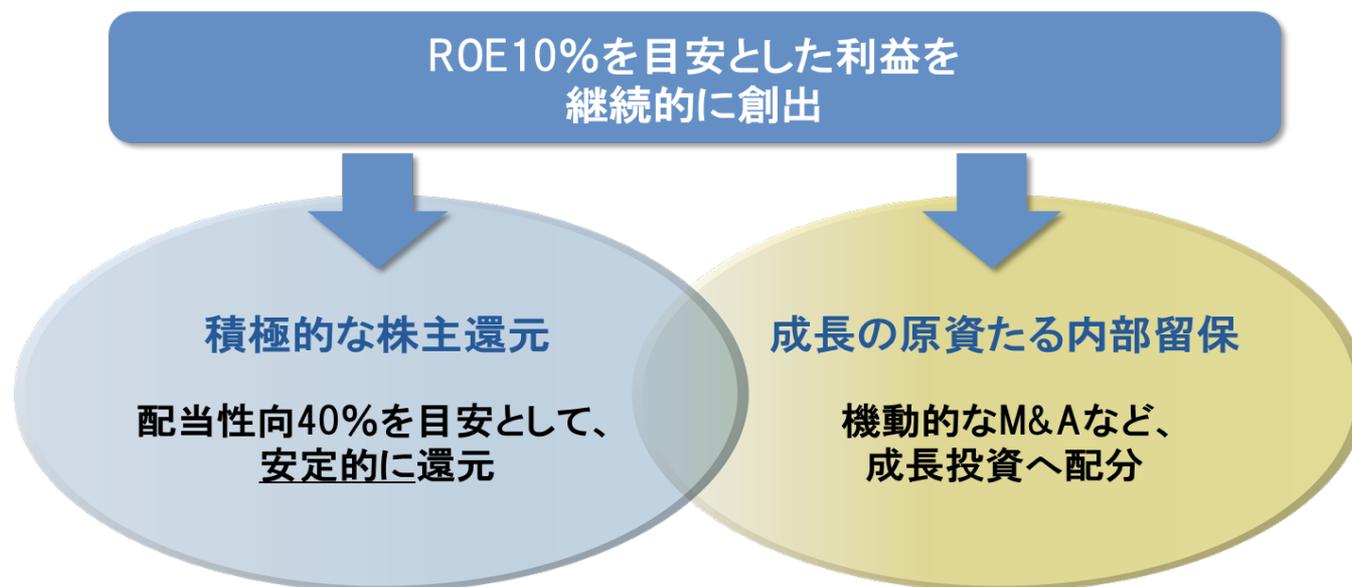
※取得済み開発用地: 鬼怒川、千葉(雀島・保田)、軽井沢、箱根強羅、熱海伊豆山、浜名湖、高島、高山 (2020.9時点)

中期経営計画「Connect 50」定量計画

単位(億円)	2017年度 (前中計最終年度実績)	2022年度 (Connect50 最終年度)
売上高	1,654	2,100
営業利益	177	240
経常利益	194	240
当期純利益	118	160

＜2020年8月時点＞
今中期経営計画については、2021年度より適用開始される「収益認識に関する会計基準」の影響や、外部環境の変化を踏まえ、2020年度中を目途にローリングを検討しております。

2022年度 セグメント概況 (想定)	会員権: 開業時繰延実現は減少するも収益規模維持	メディカル: セグメント利益100億円突破
	ホテルレストラン: 売上高1,000億円突破・利益率8%目処	本社費: 連結売上高の4~5%目処で推移



グループブランドの強化・浸透への取り組み

2019年4月、今中計「Connect50」のグループブランド強化・浸透への取り組みの一つである「RTTGポイントクラブ」をスタート。当施策をはじめ、お客様との接点を充実させていくことで、個別の事業・商品ブランドにおける価値創出にとどまらない「一生涯」を通じたお付き合いをさせていただける、唯一無二のグループブランドへ向けた取り組みを推進していきます。

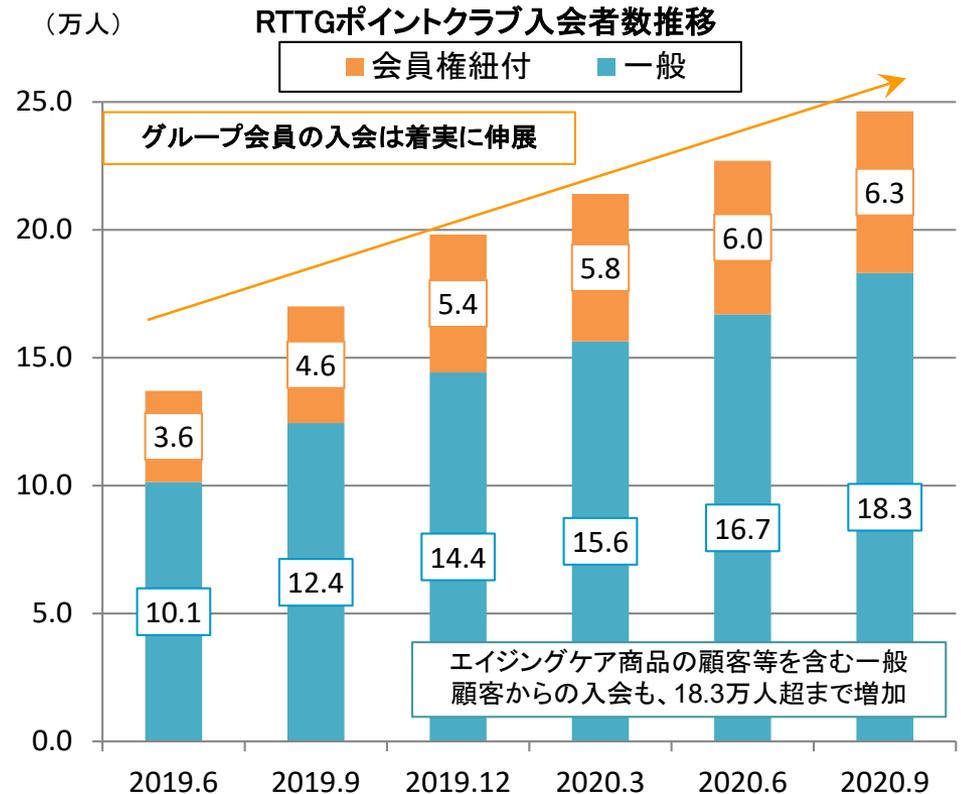
＜シナジー創出に向けた機能の活用＞

- ＞プッシュ通知⇒グループの様々なプランやキャンペーン情報等を告知。リアルタイムで利用を喚起する情報を発信。
- ＞グループ情報の発信⇒会員への認知向上に向け、グループの様々な商品、サービスの充実等に関する情報を配信。4月には、クリニックでのグループ会員向け遠隔診療サービス開始を告知。

ポイント獲得／利用対象



一般も含めたTotalのポイントクラブ入会は、2020.9末時点で約24.6万人(うち、会員権紐付については、約6.3万人まで増加)



ESGに関する当社グループの概況①

リゾートトラストグループ経営理念

ホスピタリティ憲章(行動規範)

中期経営計画「Connect 50」

今中期計画における環境認識(社会的ニーズ)

- ・富裕層および一般向け滞在・宿泊施設需要(国内・海外)
- ・観光立国、地方創生、働き手不足、ダイバーシティ推進
- ・ハイクオリティで安心なシニア向けサービス・施設の拡充
- ・健康の維持、早期発見による予防医療ニーズの高まり
- ・高度先進医療の研究開発、エイジングケア事業の展開



社会課題の解決
企業価値の
持続的向上

<ESG課題に基づく整理>

	当社グループ事業における重要性(リスクと機会)	個別取り組み事例
E (環境)	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境との調和、生態系の保全 ・開発時の負荷低減、省エネルギー、省資源、リサイクル促進、汚染防止 <p><リゾート事業における美しい自然は、最も魅力のあるかけがえのない財産></p> <p>関連方針: 環境方針(2005年制定)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・LED化、メガソーラー、エコステイ ・エコカーの使用 ・おりがみアクション(生物多様性) ・レインフォレストアライアンス認証のコーヒー豆使用 ・開発時の植樹、グリーンキャンペーン 等
S (社会)	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル化の推進等生産性向上による、働き手不足への対応 ・余暇・健康・美を創出するホスピタリティ産業における女性の活躍 ・世の中の変化のスピードに対応する人財の「多様性」 <p><グループの各事業で、「ホスピタリティ」が共通の強みとなる重要な理念></p> <p>中期目標: 男性育児休業取得率50%(2024年3月)、女性管理職比率25%(2025年4月) 年間休日数(ホテル従業員)105日→120日(労働時間2,085H→1,920H)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・障がい者雇用の充実(各種賞受賞) ・労働時間の見直し、削減、休日増加 ・ダイバーシティ推進室設置、活動推進 ・健康経営宣言、ホワイト500 ・くるみん認証取得、各種社内制度充実 ・システム化推進による働き方改革の推進
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活性化・地方創生へ貢献、インバウンドに対応した施設の拡充 ・医療機関との共同研究・技術革新「がんで大切な人を亡くさない社会」へ ・介護施設・サービスの拡充により安心で豊かな暮らしを創造 <p><余暇、健康、医療に関するサービスを通じ、お客様のしなやかな人生に貢献></p> <p>今中計期間: 芦屋・熊本・横浜等、地域・行政との調和・連携を重視したホテル開発 メディカル事業拡大による利益倍増(シニアライフ施設は約1,500室→3,000室へ)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現地採用(地域での雇用創出) ・地産地消、食育・地域活動 ・自然体験の企画、参加 ・施設、商品の安全・品質確保 ・健診設備充実、医療関連・介護施設の拡充 ・BNCT(がん治療)機器開発:2019年11月治験開始
G (ガバナンス)	<ul style="list-style-type: none"> ・ステークホルダーとの強固な信頼関係、各種リスクマネジメント ・経営の透明性確保(社外取締役比率向上、ダイバーシティ推進) ・独自性の高いビジネスゆえの企業経営としてのガラパゴス化リスクを防止 <p><信頼を失うことが、最大のリスク></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・体制: 監査等委員会設置会社 ・任意委員会: 2(報酬諮問、指名諮問) ・社外取締役比率: 35.3%、女性取締役比率: 11.8% ・リスク管理委員会設置、体制の拡充

ESGに関する当社グループの概況②

＜ESGに関連する社外からの評価＞

(直近の取得)

 <p>2020 Sompo Sustainability Index</p>	<p>2020年度「SOMPOサステナビリティ・インデックス」投資対象銘柄に2年連続選定 (損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント)</p>	<p>2020年 6月</p>
<p>MSCI日本株女性活躍指数(WIN)構成銘柄に選定</p>		<p>2020年 6月</p>
 <p>2020 健康経営優良法人 Health and productivity</p>	<p>健康経営優良法人認定を 2017年より4年連続で取得 (経済産業省、日本健康会議)</p>	<p>2020年 2月</p>
	<p>平成30年度愛知県ファミリー・フレンドリー企業表彰「イクメン・イクボス企業賞」受賞(愛知県)</p>	<p>2020年 2月</p>
<p>「令和元年度 障害者雇用職場改善好事例」の奨励賞(高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長賞)を受賞 (主催:独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 後援:厚生労働省)</p>		<p>2020年 1月</p>
 <p>あいち女性輝きカンパニー</p>	<p>令和元年度「あいち女性輝きカンパニー」優良企業として選定(愛知県)</p>	<p>2019年 10月</p>
 <p>Smart Meal スマートミール</p>	<p>「健康な食事・食環境(スマートミール)」認証制度にて、弊社従業員食堂24か所が最上位の三つ星を取得</p>	<p>2019年 10月</p>



次世代認定マーク「くるみん」を2019年に2回目の取得(厚生労働省)
※初回は2016年に取得

2019年
1月

平成29年度東京都障害者雇用優良取組企業
「障害者雇用エクセレントカンパニー賞」受賞(東京都)

2017年
9月

「平成27年度 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構理事長努力賞(障害者雇用優良事業所)」を受賞
(独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構)

2015年
9月



平成26年度ダイバーシティ経営企業100選
(経済産業省)

2015年
3月

「障害者雇用職場改善好事例」平成25年度最優秀賞
「厚生労働大臣賞」を受賞
(主催:独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 後援:厚生労働省)

2013年
9月



「厚生労働大臣賞」受賞に関連した、天皇后両陛下による
東京本社事務支援センターへの行幸啓(当時)

參考資料

<参考>2021年3月期の主な動き

- 1.日本橋室町三井タワー ミッドタウンクリニックオープン(部門毎に順次開業)。
・外来診療:5月11日サービス開始 ・健康診断/人間ドック部門:5月18日サービス開始
2. 会員制総合メディカル倶楽部「ハイメディック東京日本橋コース」検診開始(6月3日)
- 3.完全会員制リゾート「横浜ベイコート倶楽部 ホテル&スパリゾート」および「ザ・カハラ・ホテル&リゾート 横浜」開業(9月23日)
- 4.会員制リゾートホテル開発用地(土地:岐阜県高山市)の取得(9月28日)
- 5.『業績予想の修正ならびに剰余金の配当(中間配当)の実施 及び配当予想の修正に関するお知らせ』を公表(11月10日)

※例年開催しておりました第28回「リゾートトラストレディス」および会場を提供していた「ダンロップ・スリクソン福島オープン」の今年度の開催については、中止となっております。

＜参考＞会員権契約状況(契約高)(4-9月)

(単位 億円)

	2020年9月 実績	2019年9月 前年実績	前年増減	※ 2020年9月 販売進捗率 (累計契約高)
ザ・カハラクラブ ハワイ	3	—	+3	—
横浜 ベイコート	120	114	+6	88.1%
ラグーナベイコート	31	68	△37	—
XIV 六 甲 SV	△4	5	△9	47.0%
芦屋 ベイコート	89	47	+42	97.1%
XIV 湯 河 原 離 宮	△9	16	△25	75.9%
他 既 存 ホ テ ル	31	57	△27	—
会員権セグメント計	261	308	△47	—
ゴ ル フ	4	2	+1	—
ハイメディック	29	29	△0	—
合 計	294	339	△46	—

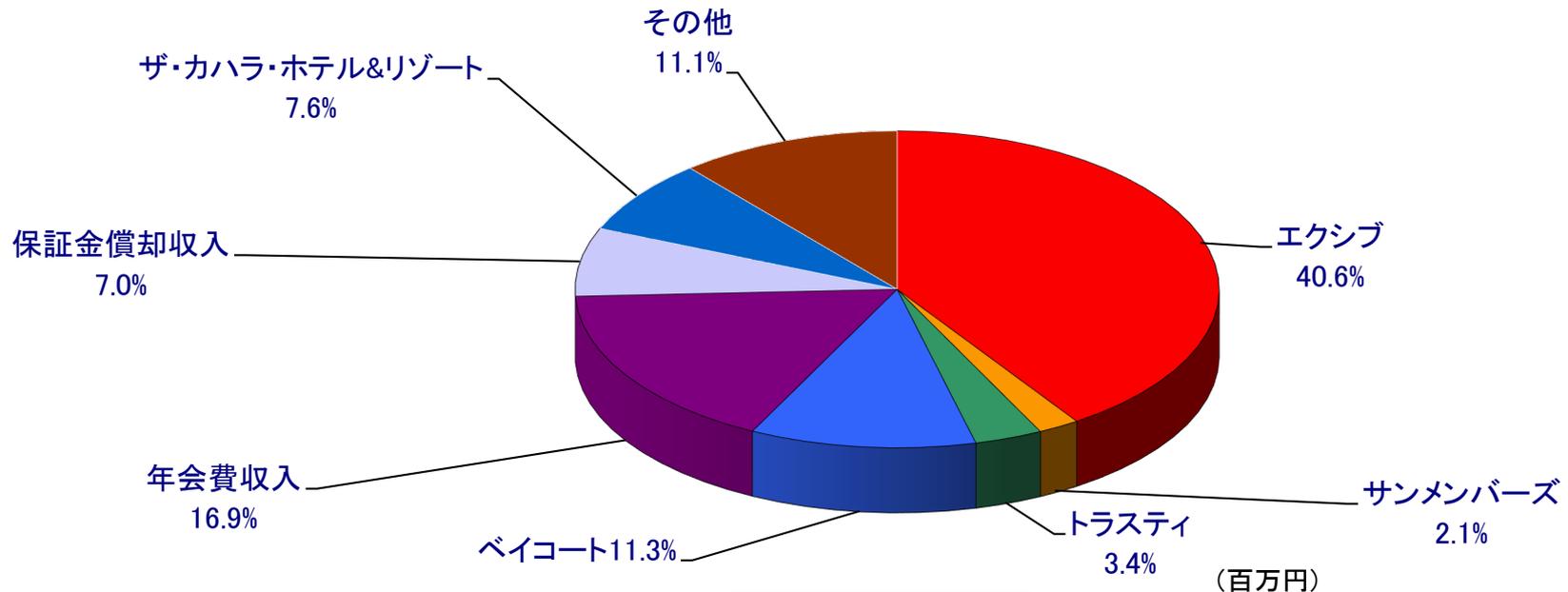
※当初総契約高(回収予定額)に対する進捗率

＜参考＞会員権事業・物件別売上高(4-9月)

(単位 億円)

		2020年9月 実績	2019年9月 前年実績	前年増減
ザ・カハラクラブ ハワイ		1	-	+1
横浜ベイコート		{ 104	{ 103	+0
ラグーナベイコート		27	62	△35
XIV 六 甲 SV		△ 3	4	△8
芦屋ベイコート		79	43	+36
XIV 湯 河 原 離 宮		△ 9	14	△23
他 既 存 ホ テ ル		17	47	△30
ホ テ ル 会 員 権 計		217	274	△57
繰延売上	横浜ベイコート	{ +201	{ △ 55	+256
	ラグーナベイコート	-	-	-
	XIV 六 甲 SV	-	-	-
全 ホ テ ル 計		418	219	+199
そ の 他		3	3	△0
会 員 権 セ グ メ ン ト 計		420	222	+199

<参考>ホテルレストラン等事業・業態別売上(4-9月)



	2020年9月 実績	2019年9月 前年実績
エキシブ	10,207	17,636
サンメンバーズ※	520	2,392
トラスティ	854	3,243
ベイコート	2,851	4,794
年会費収入	4,247	4,182
保証金償却収入	1,756	1,788
ザ・カハラ・ホテル&リゾート	1,904	3,735
その他※	2,800	4,394
合計	25,143	42,167

※サンメンバーズ: リゾーピア箱根営業終了(2019年11月末まで営業)

※その他: 休業期間の収入を特別損益項目へ振替(年会費△881、保証金償却△360)

<参考>ホテルレストラン運営状況(4-9月)

<ホテル運営状況>

宿泊者数

(千人)

	2018年9月期 実績	2019年9月期 実績	2020年9月 実績
エクシブ	986	987	536
サンメンバーズ	210	212	39
トラスティ	349	348	90
ベイコート	105	152	90

稼働率

(%)

	2018年9月期 実績	2019年9月期 実績	2020年9月 実績
エクシブ	52.7	52.9	29.7
サンメンバーズ	58.3	61.8	13.1
トラスティ	91.1	88.3	18.8
ベイコート	46.2	46.0	28.0

<参考>

2020年9月 実績 (運営時のみ)
36.4
20.2
21.2
29.4

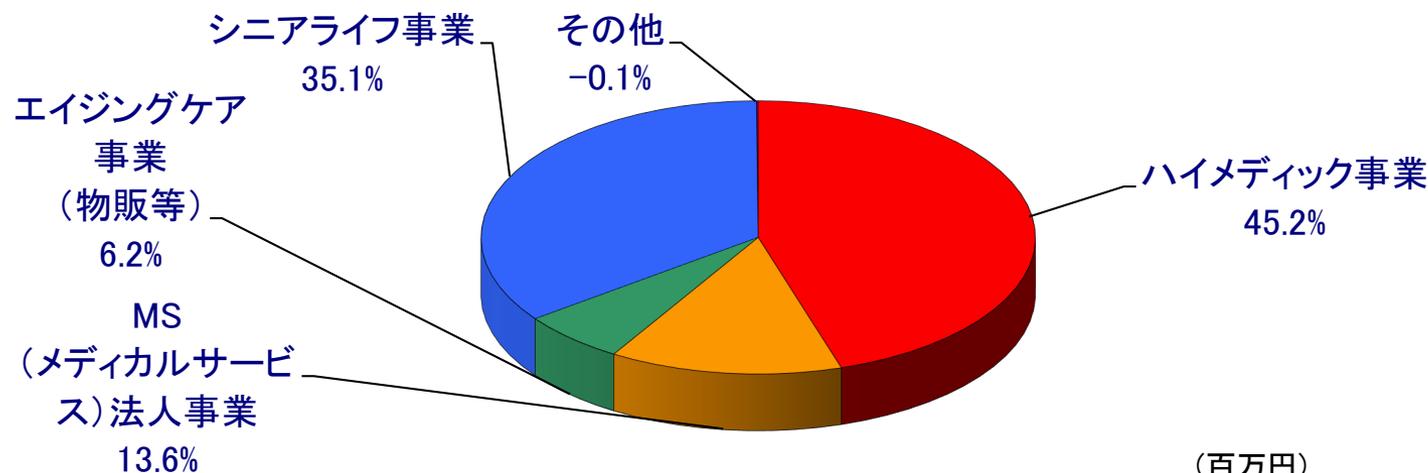
※クローズ期間を
算定分母から除く

消費単価

(円)

	2018年9月期 実績	2019年9月期 実績	2020年9月 実績
エクシブ	18,380	17,857	19,039
サンメンバーズ	10,920	11,273	10,238
トラスティ	9,654	9,314	9,487
ベイコート	33,142	31,497	31,372

＜参考＞医療事業・部門別売上高(4-9月)



(百万円)

	2020年9月 実績	2019年9月 前年実績
ハイメディック事業	8,490	8,211
MS(メディカルサービス)法人事業※	2,549	3,043
エイジングケア事業(物販等)	1,157	1,282
シニアライフ事業	6,587	5,645
その他(消去含む)	△19	1,347
合計	18,764	19,532

※一般向け医療施設運営支援等

＜シニアレジデンス運営状況＞

	2020年9月 実績	2019年9月 前年実績
全施設平均入居率(%)	87.3	86.5
居室数合計(室)	2,100	2,100

<参考>繰延収益(未実現収益) ※通期ベース

《未開業物件の販売における計上方法》※詳細はP.30参照

登録料:契約時に「売上」に計上

不動産売上・不動産原価: ホテル開業時まで繰延べとなる(契約時には収益計上されない)

※販売した期に不動産収益が計上されることを前提とし(±0)、繰延べられる期には△、実現する期には+として表記

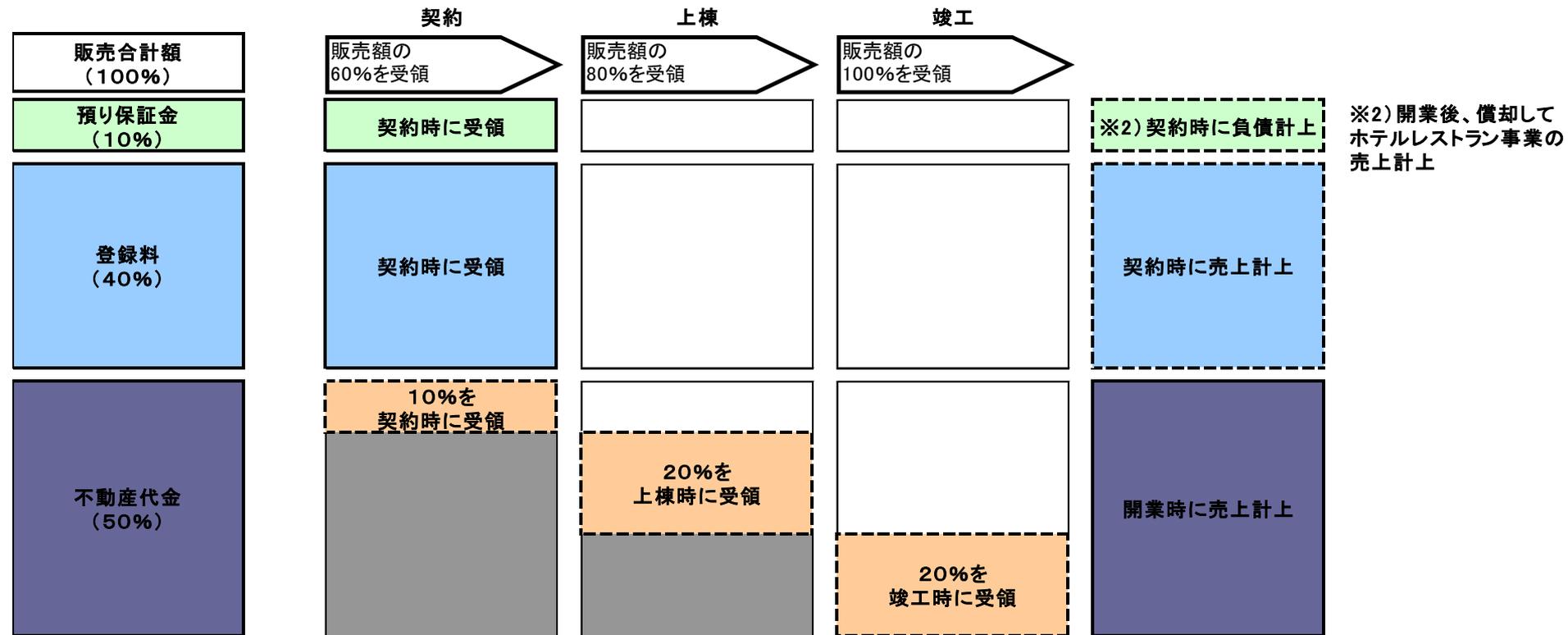
(単位:億円)

事業年度	2015年3月期実績		2016年3月期実績		2017年3月期実績		2018年3月期実績		2019年3月期実績		2020年3月期実績		2021年3月期実績	
未開業(繰延)物件 契約高	湯河原 鳥羽別邸	92億 118億	六甲SV 芦屋 湯河原	45億 301億 123億	ラグーナ 六甲SV 芦屋	200億 32億 125億	横浜 ラグーナ 六甲SV	72億 208億 25億	横浜	130億	横浜	227億		
繰延(不動産売上・利益)	売上	利益	売上	利益	売上	利益	売上	利益	売上	利益	売上	利益	売上	利益
横浜ベイコート	繰延(△)						△ 35	△ 12	△ 62	△ 21	△ 105	△ 34		
	繰延実現(+)												+201	※ +71
ラグーナベイコート	繰延(△)				△ 102	△ 32	△ 104	△ 34						
	繰延実現(+)									+205	※ +71			
XIV六甲SV	繰延(△)		△ 21	△ 4	△ 14	△ 3	△ 11	△ 2						
	繰延実現(+)									+47	※ +11			
芦屋ベイコート	繰延(△)		△ 153	△ 54	△ 61	△ 22								
	繰延実現(+)								+212	※ +82				
XIV湯河原離宮	繰延(△)	△ 47	△ 13	△ 55	△ 17									
	繰延実現(+)					+102	※ +34							
XIV鳥羽別邸 ※2014年3月期より 販売開始	繰延(△)	△ 63	△ 17											
	繰延実現(+)			+98	※ +30									
影響額合計(単年度)	△ 110	△ 30	△ 132	△ 46	△ 75	△ 23	+62	+34	+189	+61	△ 105	△ 34	+201	+71

※繰延実現利益(+)の実績値には、予定原価と確定原価の差異を含む

連結業績ハイライト	2015年3月期実績		2016年3月期実績		2017年3月期実績		2018年3月期実績		2019年3月期実績		2020年3月期実績		2021年3月期計画	
	売上高	営業利益												
開示数値(計上数値)	1,204	160	1,422	186	1,435	135	1,654	177	1,795	189	1,591	116	1,650	110
① 繰延(+・実現)影響額を除いた数値	1,314	191	1,554	232	1,510	158	1,592	143	1,607	128	1,697	150	1,449	39
② ①+開業関連費用を除いた数値	1,314	191	1,554	238	1,510	170	1,592	162	1,607	144	1,697	160	1,449	58

<参考>ホテル会員権の計上(未開業物件の場合)

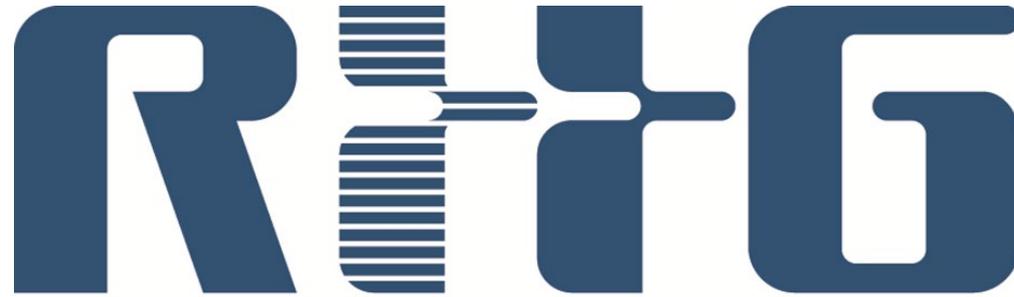


※2) 開業後、償却してホテルレストラン事業の売上計上

(例) 会員権価格が1,000万円のケース

	契約	上棟	竣工	開業	収益計上
預り保証金	100万円				※2) B/S負債計上
登録料	400万円				売上計上(契約時)
不動産代金	(*) 100万円	(*) 200万円	(*) 200万円		売上計上(開業時)
契約高合計	600万円	200万円	200万円		
売上計上額	400万円	0万円	0万円	(※1) 500万円	
				売上原価	350万円
				年会費	13万円

(※1) 不動産代金については、開業するまで繰り延べられ、開業時に売上計上。



RESORTTRUST GROUP

リゾートトラスト株式会社 IR部

<https://www.resorttrust.co.jp/ir/index.html>

※ 本資料には、将来の業績に係る記述が含まれています。

こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包する物です。将来の業績は、経営環境の変化等により異なる可能性があることにご留意ください。